

鉄骨工事 Q&A	高力ボルト接合	仮ボルト	制定	2011年7月1日
			改訂	2023年2月1日

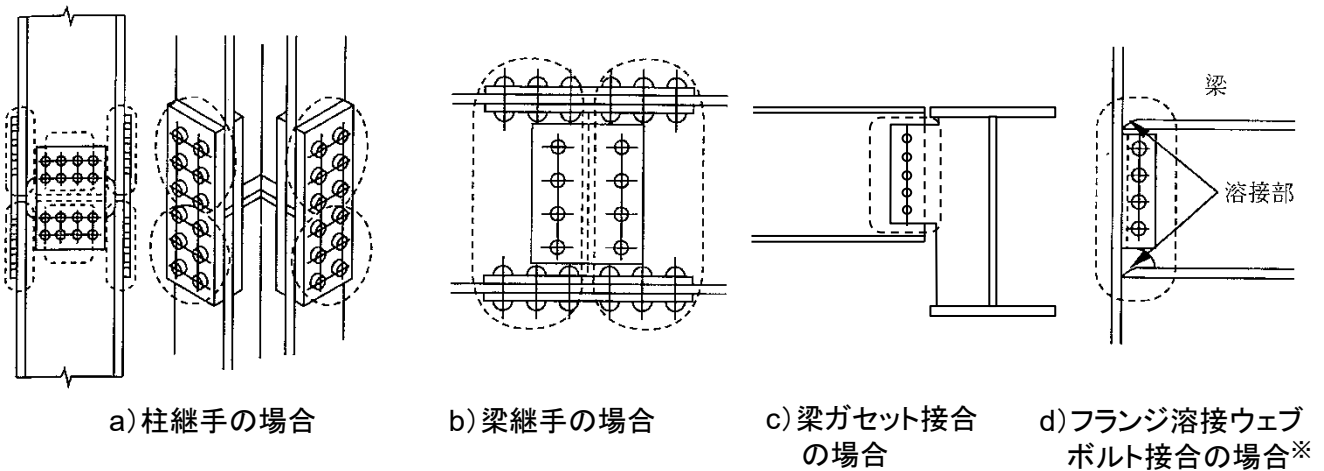
Q. 高力ボルトを当日中に本締めまでを行なう場合、仮ボルト代わりに使用してはいけないか？

A.

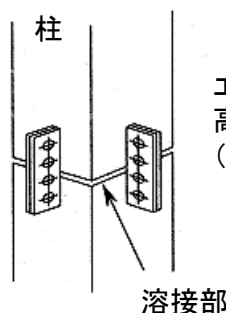
高力ボルトを仮ボルトとして使用する際に、精度調整などでねじ山が痛むなどの不具合が生じ、本締め時に正規の軸力が導入されない可能性があるため、基本的に使用しないようにします。仮ボルトは、取り替えが行われたかを確認しやすくするために、本ボルトがトルシア形の場合は六角ボルトを使うなどの配慮が必要です。

仮ボルトはボルト一群に対して1/3程度かつ2本以上※をウェブとフランジにバランス良く配置して締付けます。なお、「日本建築学会 鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」には「建方当日に本締め作業が終了できるなど特別な場合を除く」と記載がありますが、その場合でも、建方時のボルト挿入の際に、ねじ山が痛まないようにボルシン等で先行して位置決めを行い、ボルトを挿入するなどの配慮が必要です。建入直しの際にボルトに傷がつく可能性もありますので、注意が必要です。

※フランジ溶接の混用接合の場合は
1/2以上の仮ボルトを締付ける



仮ボルト締付けにおける一群の考え方



エレクションピース部は、仮ボルトとして高力ボルトを使用し、全数を締付ける。
(現場溶接での収縮・現場施工時外力に耐えるため)

エレクションピースの仮ボルト